



# 火虫

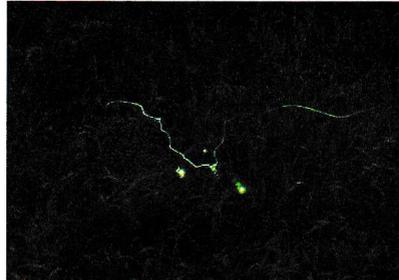
毎年この時期には、夏の川に螢が飛びます。

マスは草のところでじっと動かさず、ピカピカと光ります。オスは優雅に光りながら飛びます。

まっ暗なので、螢の小さな光は、とても幻想的です。そして、少し切ない感じにもなります。

私は、結婚してはじめて螢を見ました。もう本当に感動して、幸田に采られて有り難いと思いました。(やすよ)

螢は成虫になると、2から3週間しか生きられない。その期間の中も飛び交い神秘的な光を放って存在をホーしている。幸い裏の川は水がきれい。幼虫のエサのカワニナが豊富で、草木もたくさんある。僅か半月位の短い期間だが夜の一時、人間の自と楽までてくれる。昔の人は螢の光の下で勉強したそう。今も卒業式に螢の光が歌われている(歌う子供は意味を知るまい)。今は螢光の時代。子ども供達には本物の螢を見て、そして卒業式を迎えてほしい。



偶々撮れた 螢の写真(2006年)

橋のところでいくもの(案)にひっかかっ、↑した螢をそっとつかんで、写真とりました。

郵便局を出た所で「まずいて転んだ。転ばぬ先の杖」と持つ、この時に「まっ暗い、こいじゃないか、人間だもの。」

## 「引き寄せの法則」を語る人がいた

然「杉浦さん量子力学に興味ありますか？」と聞くので「エー、ち」とあります。と答えた。それなら、何と同じ幸田町に住む山内恵子さんを紹介された。その会話話を聞かせて貰った。先験となった村上和雄博士と一緒に研究されたと言っている経歴を持つ管理栄養士で(開発されたヘルシープレート写真)セラピストで、笑って指南の荷書を持つ。聞いた人、会うべき人には会えるんじや」と引き寄せの法則の入口が聞けた。かなり奥行き深い、凄いな、奇りがする。幸田町民だ。

## 発汗相感



幸田町のロケ美術師 最高のオパリン 馬場の配達係を務めた。▼ロケの企画をまとめた役場の課長にペン立てを贈呈。大地真央の印象は？」と

## SUNTORY

「今は女の関取がいるんだ。正代(まさよ)って、三ツ名の、オババも出てるし」。時代は今、行きたつつけの香より、かみりつけの「医院」の方が大事。▼ラッパロー日本選手権の笑況を聞いてから、ついサントリー製法を連想。自陣リジーン、ムクオニ、オニサロフ、マイボールハイボール。▼ソシ豆は空に向いているから空豆と初めに聞いた。

通院先の接骨院の先生が交

